越後：涸沢川第四尾根（仮称）～1809m峰～第五尾根（仮称）

◆日程　　2023 年 3 月 19 日（日）
◆メンバー　L：HM

All the Right Moves（「全ての正しい動き」）－1980 年代に製作されたトム・クルーズ主演映画だが、当時は全く話題にならず日本での劇場公開はなかったはず。山行中、特にシビアな場面でこのフレーズを思い出すことが多い。厳しい局面でも正しい判断と正しい動きを積み重ねればリスクは回避できる。この週末は同行者が得られずソロになったため、当初想定していた巻機山天狗尾根、大源太山コブ岩尾根はちょっと厳しい。ポピュラーな仙ノ倉山北尾根も考えたが、観光気分になるのか、今一つ気が乗らない。土曜は雪／雨予報のため、日帰りも考慮しつつ地図を眺めてみると、先日トレースした黒岩尾根、定番の井戸尾根のさらに南の方に気になる場所が…涸沢川の上流、威守松尾根と柄沢山西尾根に囲まれたエリアで、山スキーの記録は幾つか出てくる。土曜の悪天予報は変わらず、日曜日帰りに変更する。4 月中旬のフルマラソンへのテーパリング（調整）を兼ねて、翌週からワンサードマラソン（14.5km）とハーフマラソンのレースが続くので練習メニューを極力こなしておきたいのと、黒岩尾根の後、睡眠中の腕の痺れが続いている（ザックの肩ベルトによる圧迫が原因）ことも理由の一つ。土曜の降雨／湿雪で雪崩発生リスクが高まるだろう。ここは Light ＆ Fast（＆ Right）で駆け抜けたい。

3 月 19 日（日）　天候：快晴

今回は早朝発で渋滞にハマることなく、最終除雪地点である涸沢橋に到着。先着車両は 3 台。うち 1 台は飛弾ナンバー！遠方からご苦労様…自分も名古屋ナンバーだけど。念のためスノーシューと輪かんを持ってきたが、重い湿雪のためスノーシューを選択。ここから複数あるトレースを辿っていくと、左の雪原に入るスキーと国道を直進するスノーシューのトレースに分かれる。後者を選択してしばらく直進するが、何だかおかしい。トレースの分岐まで引き返し、スキーのトレースに入り直す。これで 20 分ほどロス。樹林帯の中の登山道を進むと、やがて視界が開け、最終堰堤を越えると、大きな谷の中に目指すべき稜線と左右の穏やかな尾根たちが見えてきた。快晴、青と白のシンプルで美しい世界…やっぱり冬山はいい。来てよかった。

涸沢川中流部のナメ滝

涸沢川第二尾根末端（右）

計画では上流部左岸の「柄沢山西面ダイレクト尾根（仮称）」と勝手に名付けた尾根を登る予定だったが、地形図と照合して、これまた勝手ながら新たな呼称を与えることにした。左岸側下流から反時計回りに第一尾根と第二尾根、稜線へ繋がる第三尾根と第四尾根、右岸側の第五尾根。さて、今回はどれを登下降しようか…とりあえず下流と上流を隔てるゲート的な第一尾

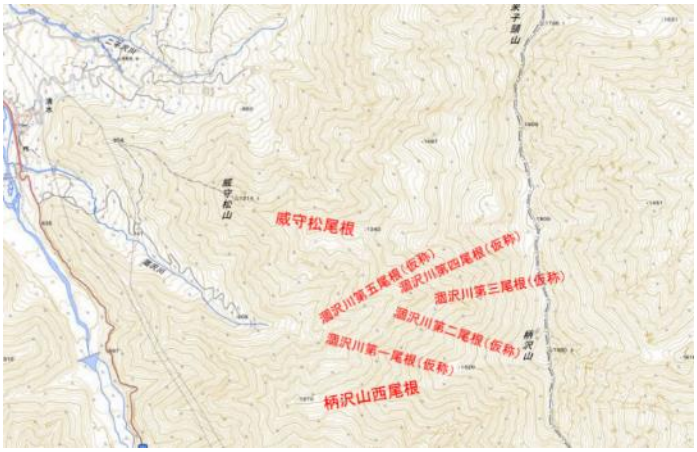
根と第五尾根は下降路としてキープ、上流側 3 本の内、第二尾根と第三尾根は来年以降にキープ（会の集中山行をやれば面白そう）ということで、今回は第四尾根から稜線北側の 1809m 峰に立ち、威守松尾根上部から第五尾根を下降して涸沢川に戻るルートを選択。標高 1230m 付近の二俣で左俣に入り、スキーのトレースと別れて第四尾根の末端台地に乗る。ここからファーストラッセルと思いきや、この先で再びスキーのトレースが出現！結局同じ尾根にスキーの大きなジグザグと交差しながらスノーシューのトレースを刻むことになった。標高 1500m を越えた辺りで上部からトレースの主（スキーヤー）が現れた。挨拶後、会話すると、スノーシュー？と驚いた様子。東海地方（愛知・岐阜・三重）から 2 泊 3 日の予定で来たという 5 人パーティーで、初日は雨で中止したとのこと。この尾根の名称を聞いてみたが、やはり知らないそうだ。そもそも尾根の呼称など気にしないのだろう。歓声を上げながら谷へ滑り込んでいく彼らを見送り、しばらく登高すると尾根の傾斜は緩まり、1809m 峰に導かれる。山頂から見る谷川東面はさすがのド迫力だが、大源太の刃のような鋭い東面が一際印象的だ。行かなくてよかった…

涸沢川第四尾根上部のブナ林

大源太山東面の威容（左）

威守松尾根経由で第五尾根へと下降。共に少し急な部分もあるが、スノーシューを履いたままバックステップで下れるレベル。山頂から 3 時間足らずで涸沢橋に戻ることができた。

このエリアには雪稜と呼べるようなものは無さそうだが、ブナ林が美しい癒し系で、スキーヤー以外の登山者にもっと登られてもよいエリアだと思う。1996 年 12 月に当時入会したばかりの東京の山岳会で高仙尾根～巻機山～米子頭山西尾根という訳の分らない藪雪稜ルートに連れて行かれ、心身ともにボロボロに打ちのめされた。が、このとき感染して免疫ができてしまったのか、その後も名古屋、東北、横浜と拠点を移しながらも越後三山、黒部・剱、白山山系、飛騨高地、飯豊連峰、虎毛山塊、会越国境等において、そんなスタイルの山行というかルート探しを続ける自分がいる。その原点の一つがここ巻機山だと思うと愛着を感じる。　　（記：HM）



CT：涸沢橋 8:15 - 涸沢川最終堰堤上 9:35-涸沢川第四尾根末端 10:30/10:45-1809m 峰 12:40/12:50-涸沢川第五尾根末端 14:40 - 涸沢橋 15:30